

健康福祉委員会資料

(健康福祉局関係)

2 所管事務の調査（報告）

(2) 地域猫活動支援（サポーター登録制度の導入）について

資料1 地域猫活動支援（サポーター登録制度の導入）について（報告）

平成30年5月30日

健康福祉局

- ・・・「地域猫活動」とは、野良猫対策のひとつとして、ボランティアや地域住民等によって、特定の飼い主のいない猫を適正に管理し、地域住民の理解のもと地域の生活環境の向上を目指して活動することです。本市では、地域猫活動をさらに推進するため、サポーター登録制度を導入していきます。

1. 背景

(1)猫に関わる苦情・相談の概況

猫に関する苦情・相談件数

H26 1889件、H27 2324件、H28 1747件と、毎年、2000件前後（市内）

地域が抱える野良猫等に関する問題点

- 置き餌による不衛生状態や糞尿被害
- 子猫の出生による被害拡大
- 餌を与え続けるだけの住民と地域住民とのトラブル
- 不妊去勢手術を集中的かつ継続的に実施せず、数年後に元に戻るの繰り返し

(2)国の動向

平成25年、動物の愛護及び管理に関する法律改正時の附帯決議で地域猫活動について明記しており、環境省は、猫に係る苦情の低減及び引取り数削減の取組みとして、地域猫活動を推進している。

(3)本市の取組の状況

地域猫活動の普及啓発	川崎市猫の適正飼養ガイドライン(H17～) …地域猫活動のポイントなどを掲載 地域猫活動セミナーの開催(市民向けH28～) 職員向け勉強会実施
不妊去勢手術の支援	猫の不妊去勢手術の補助拡充 …補助金事業費 H18 100万円 H19～ 200万円 H26～ 300万円 H28～ 500万円 H30 560万円
苦情・相談への対応	各区衛生課で事例ごとに対応 ・・・現地調査を行い、猫の適正管理について指導。ボランティアの協力

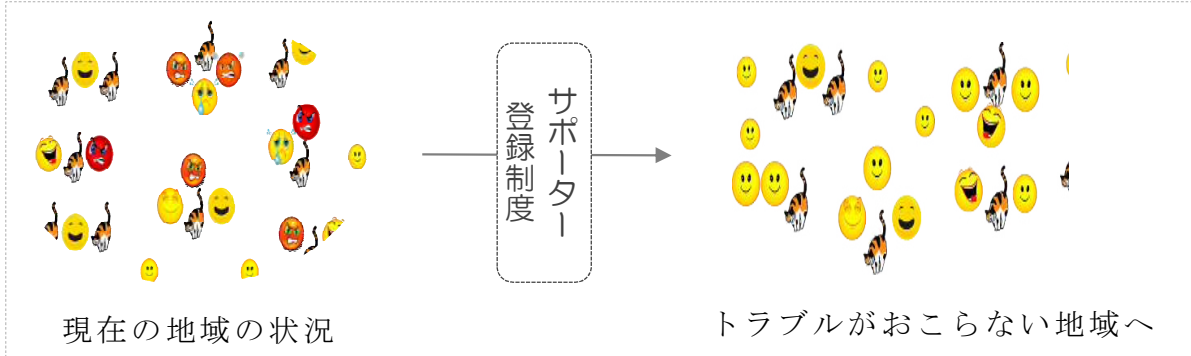
(4)過去の対応経過から見てきた野良猫対策への問題点

- 餌やりを禁止しても、給餌者が餌やりを止めることはない。
- 行政やボランティアが猫を保護しても、同じことの繰り返しとなる。
- 不妊去勢手術をしても、活動の周知かつ適正な管理が実施されなければ、苦情は減らない。

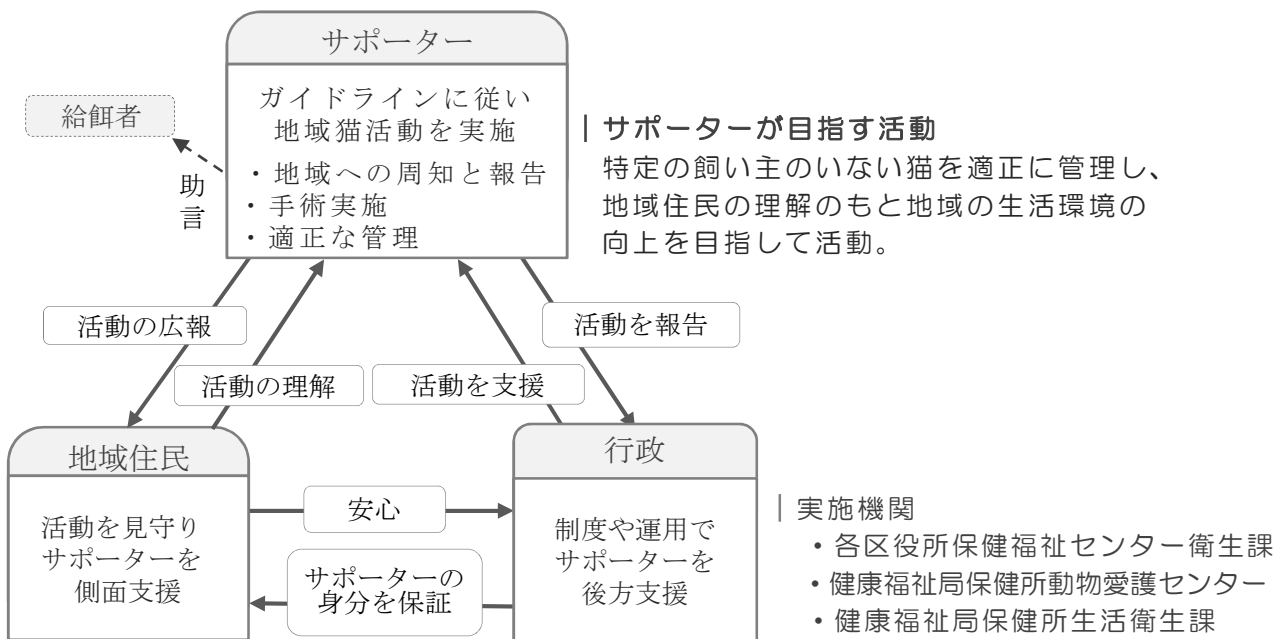
2. 本市の推進する地域猫活動 –サポーター登録制度の導入–

(1)目的

動物愛護活動をしている住民も、被害に遭っている地域住民も、野良猫を減らしたいという目的は同じであるため、活動を行政が支援していくことで、合理的に猫被害対策を進め、地域の生活環境を改善していく。



(2)三者協働による活動



(3)サポーターに対する行政の支援内容

- 不妊及び去勢手術の補助
オス：4,000円 メス：6,000円 活動地域内の対象猫は無制限（予算の範囲内）※
- H31年に開所予定の新しい動物愛護センターで、サポーターが持ち込む猫を対象に無料手術を実施
- 捕獲器の貸し出しや各区衛生課が手引書に沿って助言するなど、活動方法の具体的支援

※サポーター登録者以外の方々：従来の補助を継続
(オス：2,000円 メス：3,000円 1世帯あたり2期で6頭まで)

3. サポーター制度の概要

サポーターの登録

各区衛生課にて説明



地域の把握



地域の長などへ挨拶・説明



登録の申請



サポーター証を携帯し活動開始



活動

活動前に地域へ広報



手術のための捕獲



最終的には全頭手術

動物病院にて手術



不妊去勢手術補助制度を活用
○補助倍額
○頭数制限なし

新動物愛護センターにて無料手術



1年ごとに区に報告・更新



地域へも報告



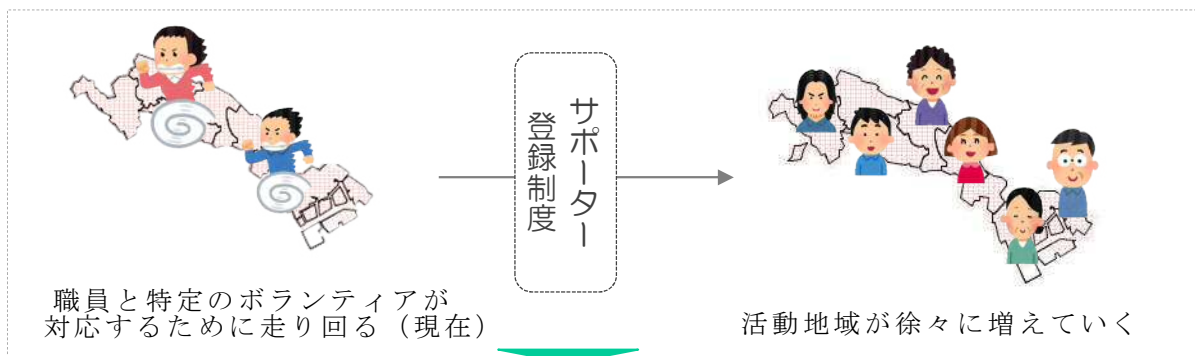
活動の継続

- 手術による子猫出生ゼロ
- 報告による活動への理解が広がり、協力者、理解者が増えることによる苦情減少
- 野良猫数の減少による糞尿被害減少
- 置き餌なしによる新入り猫ゼロと不衛生状態ゼロへ
- この活動がきっかけとなり、地域の活性化に



トイレ設置場所提供の協力者も。

各区年間1、2地域で活動が開始し、同程度のペースで増え市内に活動地域が点在していくことで、その活動効果が周りに波及していくことを想定。



「トラブルがおこらない暮らしやすい地域の実現」

4. 今後の予定

H30.6 全町連役員会にて情報提供 / H30.7 市民説明会開催・手術協力動物病院へ周知
H30.8 支援制度開始